

1 学校地域の概要

所在地 〒753-0070

山口市白石2丁目7-1

TEL 083-922-0387

FAX 083-922-4548

PTA会長 佐伯 弘明

学校長 村瀬 充俊

生徒数 328名（家庭数 303）

会員数 335（家庭数 303+教職員 32名）



本校は、全校生徒 328 名の中規模校で、校区内に県政・市政の中核的機関や官公署が多いだけでなく、山口高校、山口中央高校、中村女子高校、附属小・中学校、白石小学校等の各種学校や、白石地区地域交流センター、市民会館、県立・市立図書館、県立美術館・博物館・歴史・文化関連施設・情報センターなどの文教施設が集中している。

また、校区の中央を南北に走る国道旧 9 号を中心に、東側が主として商店街、西側が主として学校・官公署・住宅地となっており、名実ともに古都山口市の中心地となっている。

PTA活動も大変盛んに行われており、今年度、PTA活動がより効率的・効果的に実施できるよう、前年度の反省をもとに今年度の取り組みを工夫しながら行っている。また、PTA独自で、PTA活動に関わる庶務を担当する事務補助員を雇用することで、学校・家庭・地域がより密に連携をとりながら、子どもたちの学びを支える取組が積極的に行われている。

2 PTA組織

【会長 1名】

- ◇全般
- ◇地域づくり協議会理事
- ◇青少年健全育成協議会理事

【監事 2名】

- ◇各種会計監査
- ◇事業監査

【副会長 8名】

- ◇総務
- ◇会計
- ◇地域振興…ほたる祭り、祇園祭、ちょうちん祭り等へのボランティア募集
- ◇お助けグループ担当…各部署との連携（地域振興、おやじの会、学校との連携）
- ◇写真グループ担当…学校行事や地域貢献活動の撮影、写真データの保存・管理
- ◇おやじの会…学校行事や地域貢献活動の支援
- ◇ICT…各部署との連携（文書整理・保存、参加者の集計等）

3 研究テーマ

本校は、「未来社会をたくましく生き抜く生徒の育成」を学校教育目標に、めざす学校像として以下の3つを掲げている。

- 笑顔があふれる学校
- あいさつがこだまする学校
- 地域とともにある学校

このようななか、PTAとしては、「自主的に学校のため、地域のために笑顔で活動する大人の姿を子どもたちに見せたい！」という会長の強い思いから、「誰もが笑顔で自主的に活動できるPTA」をスローガンに、組織の見直しや活動内容の精選を進めてきた。

4 活動内容

今年度は、学校と地域のつながりを深めるという点に重点を置いた取り組みを行った。

白石地域には、山口市を代表する様々な文化活動があるが、その中でも、7月下旬に行われる祇園祭や、8月初旬に行われるちょうちん祭りは、夏の風物詩として市民に親しまれているだけでなく、多くの観光客が訪れる一大イベントとなっている。これまでも、それら行事に生徒がボランティアとして参加し、当日の七夕飾り制作の受付や、ちょうちんの火付けなどを行ってきた。しかし、今年度はさらに一步踏み込み、祇園祭の市民総踊りに「白石中学校」として参加し、生徒、保護者、教職員が一体となった取り組みにするとともに、中学校の存在を地域にアピールする機会にもしていくことをねらいとして行っていくことにした。

準備段階では、総踊りで踊る「大内のお殿様」の振り付けを参加生徒や教職員に習得してもらうため、中学校の音楽室を利用して合同練習会を開催したり、当日着用するはちまきや団扇を保護者で協力しながら制作したりして、参加者全員で気持ちを高めながら当日を迎えることができた。

当日は、総勢約50名の生徒、保護者、教職員が参加し、おそろいのはちまきや団扇を着用しながら商店街を練り歩いた。それとともに、今年度、白石中学校生徒会が取り組んでいる、家庭にある、使わなくなった子供服を回収し、難民などの服を必要とする人々に届ける「服の力プロジェクト」の広報活動も同時に行うため、生徒数人で大きな看板を掲げながら踊ることで、沿道で観ている方々に、白石中学校の取り組みをしっかりと



とアピールすることができた。

みんなで踊っている最中、沿道の観客の中には、今回参加していない白石中学校の生徒や保護者もたくさんいたが、知り合いが踊っているのを観たり、楽しそうに踊っている列に自分も入りたいと思ったりして、途中から列に加わって一緒に踊る方も多数現れ、最初50名程度だった参加者が、最後には70名近くにまで膨れ上がっていた。

5 成果と課題

今年度の取り組みは、「みんなで総踊りを踊りたい!」という単純な目的から始まったものであったが、いざ始まってみると、生徒、保護者、教職員のつながりをより一層深めることができた取り組みであったと思う。

さらには、地域のお祭りを盛り上げ、地域活性化の一翼を担えたという充実感とともに、生徒にとっても、自分たちの学校の取り組みを外部にアピールできる絶好の機会であり、その活動がいろいろな方面から認められることによって、自己有用感や自己存在感の向上にもつながっていると感じることもできた。

今後、さらに活動の場を増やし、様々な文化行事やイベントにおいて、生徒たちが堂々と自分の学校の良さや魅力をアピールすることができるようになれば、それは自分の学校に愛着をもつと同時に、地域の良さを感じ、地域を愛する心の育成にもつながっていくものだと思われる。そうすることで、地域住民との新たなコミュニケーションも生まれ、白石中学校は地域とのつながりを深めながら、ともに成長していく学校となっていくのではないだろうか。

今回のこの活動をきっかけに、様々な行事に保護者と地域が関わり合いながら参加できる環境を整えることで、今以上に活性化させていきたいと考えている。